

「夫婦で伊方町に移住就農 ～地域から愛される農家に～」



大久保 玲香 (32歳) 新規参入
(伊方町)

1 就農の動機・理由

結婚して1か月後、夫が「農業をしたい」と言ったのをきっかけに、移住就農先を捜すことに。東京のふるさと回帰支援センターで候補地に上がった愛媛県伊方町を視察し、「ここでかんきつ農家になろう」と決意。思い立って4か月後だった。

夫は、1年間JAの研修生として伊方町大江の農家で指導を受け、私は伊方町地域おこし協力隊に就任。鳥獣管理専門員の資格を取得し、2年半伊方町の農業振興支援を行った。園地を確保し、先に就農していた夫に合流するかたちで、約1.6haの園地から2人での農業を開始した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和4年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	女1人(本人) 男1人(夫)	女1人(本人) 男1人(夫)	女1人(本人) 男1人(夫)
経営耕地	樹園地 159a	樹園地 219a	樹園地 269a
経営内容	早生温州 38a - 清見 22a せとか 15a 伊予柑 4a 不知火 37a - その他 43a	早生温州 43a - 清見 22a せとか 15a 伊予柑 59a 不知火 37a - その他 43a	早生温州 38a 石地温州 5a 清見 32a せとか 15a 伊予柑 45a 不知火 37a 愛媛果試第48号 40a その他 62a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟
モノレール 1台

○主要農業機械

軽トラック 2台
動力噴霧器 1台
刈払機 3台
電動ばさみ 2台
クローラー 1台
ウッドチップパー 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 三重県鈴鹿市

職歴 民間会社勤務

就農研修歴

伊方町地域おこし協力隊

就農年月 令和2年10月

(2) 就農時の思い

移住当初、新しい環境での生活にワクワクした反面、田舎暮らしや就農後の生活に不安があった。また、就農直前は、収入が得られるまでの運転資金に不安を感じていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

地域おこし協力隊として、伊方の農業を勉強し、生産者とのつながりを作った。また、夫の就農後、平日は地域おこし協力隊、土日は農作業の手伝いで技術を習得した。

(2) 資金の準備

自己資金や農業次世代人材投資事業（経営開始型）、その他各種補助事業を活用している。

(3) 農地・住宅の確保

農地は、関係機関や研修受け入れ農家から情報収集を行い確保した。

住宅は町の空き家バンクに登録された倉庫付き住宅に居住している。

(4) その他苦労したこと

移住当初、地域の方からは「すぐに帰るだろう。」と半信半疑に思われていた。農業へのやる気や定住への気持ち伝わるよう、しっかりと農作業と園地管理を行った。

5 農業経営の特徴

みかんを中心に収穫期の異なる柑橘を栽培し、年間を通じて2人で作業ができるよう、出荷時期を分散させている。また、鳥獣管理専門員の資格を取得し、鳥獣害対策にも力を入れて取り組んでいる。

6 これからの夢

「愛媛果試第48号（紅プリンセス）」を始め新品種の導入などにより栽培面積を拡大したい。また、加工品にも力を入れ、販売サイト「OKUBOFARM」を充実したい。営業は私、GAPは夫というように2人で役割分担して2本柱でやっていきたい。

7 成功したキーポイント

愛媛県の特産である「柑橘」に魅力を感じ、愛媛の柑橘農家になると決めたことが1番のキーポイント。また、就農時から成木園を貸り、1年目から収入を得られたことが、現在の経営継続につながっている。なお、地域の人との人間関係を築くことで、営農面、生活面で助言を得られ、迷うことなく相談ができる。

8 就農を目指す方へのアドバイス

就農したと言っても一人前の農家ではなく、理想の経営をする農家を先生に持つことがポイントです。また、2人で経営している意識を持ち、作業効率の向上のため各々が考えて行動することも大切です。農業も自営業の一つで、経営目標や計画、収穫量、収入、労働日数等、考えることが多く大変ですが、経営も樹々も自分達のやる気次第で変わっていくのは楽しく、やりがいを感じます。

○ 指導機関からのひとこと

新規就農者向けの研修会等へ積極的に参加し、6次産業化に取り組むなど、非常に熱心な姿勢が見られます。地域とのつながりも強く、今後、地域の担い手としてご活躍されることを期待しています。

執筆機関

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室
電話番号 0894-23-0163



みかんの収穫作業



園地を前に